

グローバル展開プログラム(課題設定型研究テーマ)

◆課題(研究領域):「日本の国際広報と国際発信に関する実証研究」

◆研究テーマ:「政治と外交の対外情報発信に関する国際共同研究:
日本と他国の比較、実験と内容分析によるアプローチ」



研究期間:H26.2~H29.1
委託費総額:56,200千円

<研究代表者>

多湖淳:神戸大学大学院法学研究科/准教授



<専門分野> 国際政治学

<Web> <http://www2.kobe-u.ac.jp/~tago/cropit>

<研究目的・概要>

・日本の政治外交分野での対外情報発信は他国と比べて見劣り(いわゆる「宣伝下手」)

本研究:他国と比較で日本の政治・外交分野の情報発信を実証的に分析し、知見蓄積へ

- ・日本政府発表情報の特徴や特異性を実証
- ・情報の外国での波及プロセス、受容度を実証し、伝達方法の違いによる効果を精査

日本・アジア・欧米諸国の対外情報の発信と受容を科学的に分析し、いわゆる広報外交(public diplomacy)研究の先端知を生む。

そして①国際共同研究、②積極的な海外発信を進め、(a)日本の社会科学のグローバル化に貢献するとともに、(b)日本の対外情報発信力の向上に向けた具体的な政策的示唆を得る。

<研究計画の特徴>

・実験手法と量的テキスト分析の融合

実験と量的テキスト分析を組み合わせ、実社会に即した計量政治分析を行い、具体的な政策提言を可能にする
⇒方法論的な革新で貢献が見込まれる重要な点

・国際共同研究ネットワークの構築

日本人と米・英・加・ノルウェー・韓国・台湾といった他国研究者との国際共同研究を推進し、ネットワークを構築

・若手研究者の世界戦デビュー支援制度化

大学院生、ポスドクを積極的に共同論文執筆に関与させ、成果の英語での発信を当然とする文化と制度を整える

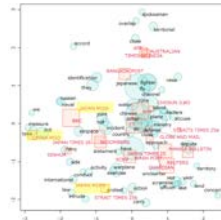
・日本の社会科学の国際プレゼンスの拡大

高インパクト・ファクターの論文で国際プレゼンスを拡大

<目標とする研究成果>

1)対外情報発信をめぐる可視化と政策提言

日本政府発信の情報が、正確に他国で報道され、受容される方策を明示する
(右図はその可視化例)



2)広報外交方法論の確立と輸出

対外情報発信をめぐるデータセットや分析ノウハウの蓄積を通じ、世界に先駆けて広報外交に関する分析方法論を体系化したのち、それを「日本発の社会科学」として広く世界へ輸出する